



令和5年度学校だより 甲府市立南西中学校

銀杏 (いちょう) 第7号 令和5年9月29日(金)発行

●教育指標 「日に 新たに」 ●学校教育目標 「たくましい心と体をもち 豊かに学び合う生徒の育成」

文責：校長 井上 有史

「零」からのスタート！第57回いちょう祭

9月21日(木)、22日(金)と第57回いちょう祭が、4年ぶりに2日間で開催されました。感染症の拡大や天候等が心配されましたが、学級閉鎖等の措置をとることもなく、また天候にも恵まれ、とても充実したいちょう祭にすることができました。残念ながら諸事情により参加できなかった生徒が数名いたものの、多くの保護者の皆様にもご参加いただき盛大に開催することができました。今回の「学校だより」は、前日準備を含めた「いちょう祭特集」としてお伝えしたいと思います。



前日準備



本番前日の5校時に、「いちょう祭を成功させるための全校集会」が開かれました。生徒会執行部からの力強いメッセージが伝えられ、テーマソングである「地球発・愛(ラブ)」の練習にも力が入りました。

その後の各実行委員会の事前準備では、当日に向けた細かい打ち合わせや、本番同様のリハーサルが行われ、いちょう祭を成功させようとする強いエネルギーを感じました。また、テントの設営等自分たちの力で万全の準備をすることが出来ました。流石中学生です。

1日目 開祭式・体育部門

初日は、体育館での開祭式からスタートしました。前多生徒会長による力強い開祭宣言に続き、生徒会作成のビデオムービーが上映されました。ICTを駆使したムービーには、スキルの高さを感じるとともに、中学生らしい独創的な内容となっていてとても感心しました。

その後グラウンドに移動し、体育部門のスタートです。まずは全校応援。応援団員の迫力あるパフォーマンスに全校生徒が全力で応え、ここでも大きなエネルギーを感じました。続いて、ブロック種目や学年種目が繰り広げられました。勝っても負けても爽やかにプレーする生徒の様子はとても清々しかったです。また、一生懸命に仲間を応援する姿も印象的でした。

午後は、全校ソーランからのスタート。私がかつて本校に勤務していた20年前には、既に全校ソーランが実施されていて、長い歴史の中でその時々々の生徒によって脈々と受け継がれてきた伝統文化であることを思うと、とても感慨深いものがありました。ぴったりと息の合った演技は、参観者を魅了しました。



2日目 文化部門・閉祭式

2年生学年発表

2日目は、2年生の発表からスタートしました。選抜チームによるアカペラの合唱、続いて各種パフォーマンス、学年合唱と盛りだくさんの内容で、とてもクオリティの高い発表となりました。それぞれの生徒が、自分の特技を生かした素晴らしい発表でした。



1年生学年発表

続く1年生は、1学期、夏休みの学習の成果としてSDGsについての取組を発表しました。寸劇を交えながら、「持続可能な社会」の実現に向け、「自分たちにできること」を発信したことはとても意義深いと思います。これからも引き続き学習を深めてもらいたいと思います。



発表吹奏楽部

続いては吹奏楽部の発表です。夏の暑い時期から取り組んできた練習の成果が披露されました。3年生にとっては、今回の発表が3年間の集大成となったため、演奏にもとても気迫が感じられました。アンコールにも応え、会場が一体となって盛り上がりました。



3年生学年発表

文化部門最後の締めくくりとなった3年生は、創作劇に挑戦しました。「命」をテーマにしたこの劇は、逆境に負けず力強く生きていく勇気を参観者に与えるものでした。白熱の演技は、見ているものを魅了し、流石最上級生と感心しました。



どの発表もテーマ性があり、それぞれの個性が感じられる素晴らしいものでした。

閉祭式

閉祭式では、取り組み期間から当日までの様子が放映され、全校生徒にとって有意義な振り返りになったのではないかと思います。エンディングは、全校生徒が肩を組んで「地球発・愛（ラブ）」の合唱です。この曲は、平成9年に当時の生徒会役員と先生方が協力して創ったオリジナルソングで、20年以上歌い継がれてきたものです。感染症のためなかなか合唱への取組できなかった期間がありましたが、ようやく、全校生徒が肩を組み、体を揺らしながら合唱を発表できたことには感慨深いものがありました。

2日間多くの感動や元気を与えてくれた生徒のみなさんに感謝です。この経験を次の活動に繋げていって欲しいと思います。

